

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—6号



2008.06.12

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01
From the President / Masaru MAENO

2008年次第1回拡大理事会報告(3/22)／赤坂 信 02
Report on the 1st Meeting of the Executive Board, 2008
Makoto AKASAKA

イコモス文化的景観国際学術委員会(ISC)2008年臨時会合報告
／杉尾伸太郎、大野 渉 07
Report on the Special Meeting of the ISC Cultural Landscapes
(ICOMOS/IFLA) / Shintaro SUGIO, Wataru OHNO

UNITAR広島オフィス主催「世界遺産サイトの管理と保全に関する研修」
／宇高雄志 07
UNITAR Hiroshima Office Training Workshop for the Management
and Conservation of World Heritage Sites / Yushi UTAKA

お知らせ 08
Announcements

事務局日誌 10
Diary

はじめに
前野まさる

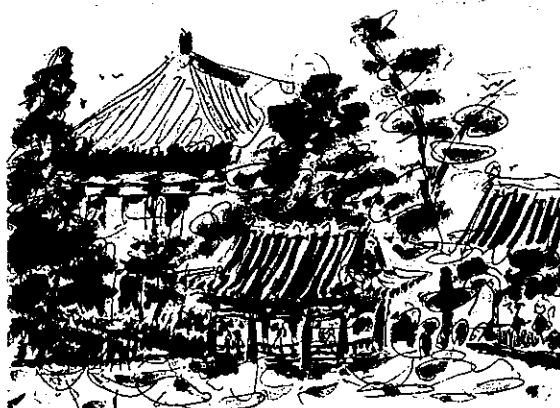


日本イコモス国内委員会の会員数は300人を超え、各個人は大変活性化しているのですが、組織となると特定の方にし寄せがくるのは、どの世界でも共通の悩みようです。しかし、近年日本イコモス国内委員会を活性化しようとの試みが進められ、年4回の拡大理事会の内2回は国内の世界遺産関係の地を選び理事会と視察・研究会を開催してきました。地域行政の世界遺産担当者を交えた研究会や意見交換会を通じて、担当者の視点や悩みを知ることが出来るようになりました。今回は富岡製糸場で、研究会を開催しますが、世界遺産における産業遺産の視点の在り方の意見交換ができるものと思います。

昨年のプレトリア執行委員会の学術委員会では地球温暖化が文化遺産に与える影響について各国の報告がありました。一昨年のインドネシア沖地震と津波災害、今年5月2日のミャンマーのサイクロン災害、続く中国四川の大地震とその4,500万人を超える被災者、9万人余の死者と桁違いの大災害、何となく地球の不気味さを感じます。

日本列島はユーラシアプレートの東端と北米プレートがぶつかり合い、海底ではフィリピンプレートの下に太平洋プレートがもぐり込む地形の上にあり、古来地震の多発地帯でした。故に日本建築は飛鳥の御代から現代に至るまで耐震が課題でした。一部の国には日本の構造力学の専門家が外向いて耐震教育をしているようです。今後はアジア太平洋地域の国々に、人命は勿論、文化遺産の保護のためにも、日本の地震、津波などの自然災害の経験から学んだ耐震、防災の技術を学んでいただく機会を創りたいと思います。皆様のご活躍とお力添えをお願いいたします。

最後になりましたが、中国四川の大地震の被害者の方々に当委員会から中国国内委員会を通じてお見舞いをお送りしたことをご報告申し上げます。



イラスト／前野まさる (以下全て)

2008年次第1回拡大理事会報告

2008年次第1回理事会(拡大理事会)が去る2008年3月22日(土)14:00から17:00まで文化財保存計画協会地下会議室(東京都千代田区一ツ橋)で開催された。出席者は、委員長:前野まさる、副委員長:杉尾伸太郎、西村幸夫、理事:杉尾邦江、鈴木博之、西浦忠輝、益田兼房、矢野和之、監事:前田耕作、ISC委員:高瀬裕(代理)、花里利一、顧問:石井昭、伊藤延男、坪井清足、オブザーバー:佐々波秀彦の各氏が出席、事務局から秋枝ユミイザベル、山内奈美子両氏が陪席した。報告事項、審議事項、協議事項は以下の通りである。

報告事項

1. 2007年12月8日 拡大理事会・総会報告

2007年次の一般報告、会計報告、監査報告、ICOMOS国際会議、各ISC・小委員会報告についての報告、審議事項、2008年次活動方針、各ISC・小委員会報告2008年次活動方針及び2008年次予算の報告、協議事項についてはINFORMATION誌7-5を参照されたい。

2. ISC(国際学術委員会)報告

ICORP

2008年度は、ケベック総会のときに、ICORPの代表であるデニス・ブンバル氏がカナダ・イコモスのメンバーでもあることから、ICORPの長年の課題である正式発足を行なう可能性が高いが、まだこれに関連しての通知などは届いていない。国内活動では、2008年度の立命館大学ユネスコ文化遺産防災国際研修については、2006年度以来と同様に日本イコモス国内委員会と国際イコモスICORPの後援を受けて、11月の前半に行なう予定である。また、ACCU奈良事務所では、一昨年度以来継続して実施中の文化遺産防災国際会議で、文化遺産防災を主題として実施する予定と聞いており、日本イコモス国内委員会の後援を要請してくる可能性が高い。(益田兼房)

ISCARSAH

(1) ISO13822 ANNEXにHeritage Structuresを加えるためのWGの活動が続けられていることがINFORMATION誌7-5(pp.17-18)にもとづいて報告された。

(2) 奈良でのACCU国際会議で基調講演(ISCARSAHというよりICOMOSの活動に含まれるかもしれないが、アジアにおける最近の文化遺産の地震災害と修復について)の開催。

(3) ISCARSAHのBath会議は今年7月なので、予定されている内容を紹介する程度。前は9月のトルコ会議で報告している。(花里利一)

文化的景観(IFLA)

INFORMATION誌7-5(p.18)にもとづいて以下報告。2008年4月18日~19日ノルウェーのオスロで「文化的景観現地調査技術指針」のための会合に参加の予定(本号p.7に報告掲載)。2009年6月に日本で開催予定のICOMOS/IFLA Committeeへの後援について。

(杉尾伸太郎)

CIPA(Heritage Documentation)(山田 修主査)

2009年10月に京都で開催される国際会議CIPAに向けて、国内の関係者の連携を発展させるためのワークショップ「第2回 文化遺産のデジタルドキュメンテーションと活用に関するワークショップ」を2008年3月8日~9日に奈良文化財研究所・平城宮跡資料館講堂で行なった。次回は2008年秋頃、東京での開催を予定している。今後ドキュメンテーションの活性化を目指し更なる連携をはかっていく。

(高瀬裕が代理で報告)

ISCEAH(Earthen Architectural Heritage)

(1) 2003年にイランでTerra 2003が開催された当時休眠状態だったため、J. Hurd氏らが活動再建に乗り出す。西安総会でこの再建過程が公認され、エゲル・西安principleに則って、2006年に暫定的ながら20名のBoard memberを確定。正副委員長、事務局長をネット選挙により選出して以後、現在Expert memberとCorresponding memberを広く募っているところ。その結果と、新たに草した委員会規約をケベック



総会に報告する予定。なお、下記 Terra 2008 の期間中に、10 名余の Board member がマリ共和国バマコのホテルに初めて集い、J. Hurd 委員長らから経過の説明を受けた。懸案だった Website も公開の運びとなった。

<http://isceah.icomos.org>

(2) 本年 2 月 1 日から 5 日まで、マリ共和国バマコで開催された第 10 回「土の建築」世界会議（通称 Terra 2008、正式には 10th International Conference on the Study and Conservation of Earthen Architectural Heritage）を委員会として後援。主催は Getty Institute とマリ文化省。アフリカを中心に 450 名余の専門家が結集。200 を超える応募のうちから選ばれた 100 本近い口頭発表と、60 余（プログラムによる）のポスター発表があった。日本からの参加は西浦、岡田の 2 名のみ。岡田はシリアの土の遺産についてポスター発表した。アフリカは盛り上がったが、アジア・太平洋からの参加は極めて少なかった。会議後のツアー（4 泊 5 日）では、トンブクトウ、ジェンネ、ドゴンという世界遺産などを巡った。次回は 2011 年、開催地としてペルー、イランなど 5 カ国が立候補している。（岡田保良）

3. 小委員会報告

第 5 小委員会：（プロヴディフ）

プロヴディフ旧市街地保存のためのジョイントワーキンググループの活動について、経緯と現在の状況、最終報告書出版の準備などについて石井昭主査から報告があった。他の出席者からの質問に返答、UNESCO/Japan Trust Fund の活動、及びこの地域における活動などについて、話し合われた。

第 6 小委員会：（鞆の浦）

2007 年度は、広島県と福山市が、イコモスの要請を無視する形で工事着工の準備を始めたため、これら行政が市民向けに配布した公式冊子文書の内容について、土木遺産・景観・交通・安全安心など諸分野について、イコモス会員等の無償のご協力をいただき、研究報告を 8 月と 11 月に作成し、一般社会の理解を深める研究広報活動として、イコモスのホームページにこれを掲載した。この研究報告は、埋立認可の差し止め訴訟を広島地裁に提起している、「鞆の世

界遺産実現と活力あるまちづくりをめざす住民の会」が原告となっている行政訴訟において、原告側が活用している。2008 年 2 月に、広島地裁は現時点では緊急性がないとしてこの差し止めの申し立てを却下したが、景観の利益が失われる恐れを指摘するなど、今後の埋立執行差し止め訴訟では文化遺産保護に有利な判断をいくつか示しており、引き続き原告団は鞆の浦を守るための活動を行なっていく予定であり、イコモスとして引き続き学術的な側面からの研究広報活動を行なっていく必要がある。なお、国際 NGO イコモスの活動としては、文化遺産保護のために積極的であると同時に、学術的な専門家の団体として客観性と中立性が要請されており、慎重に継続的な活動を行なう必要があるのは当然である。日本イコモスによる鞆の浦保全のための活動は、2005 年国際イコモス総会やその前後のいくつかの学術分科会の勧告によって始まった経過があり、さらに今年の総会において必要な経過報告を行なうなど、連携強化が必要である。以上、益田兼房主査から報告された。さらに関連の新聞切抜コピーが配布されて、説明があった。日本イコモスとして裁判に直接関与することはないが、証拠を用意するというかたちで小委員会は今後貢献する予定である。が、状況はまだ油断を許さないとのこと。

第 7 小委員会：（白川郷）

白川郷の保存マスタープラン作成に向けて、小委員会メンバーを複数含む有識者懇談会が 2 月 5 日（火）に文化庁内の会議室において開催された。同懇談会には白川村から村長、教育長、文化庁から荻谷参事官ほか伝統的建造物群担当者も参加した。イコモスのモニタリングに関しても話題となり、日本イコモスの自主的なモニタリングも可能性としてありえるということが西村幸夫主査から報告された。

（INFO 誌 7-5 p.19 参照）

4. 本部執行委員会報告

本年 3 月 8～9 日の 2 日間、パリの本部会議室で開催。おもな議事は次の通り。

- (1) 開会手続き。
- (2) 昨年各委員会議事の報告。ポーランドの委員ボグズロウ氏から doctrinal text（charter, guidelines, principles な

ど)の用語や形式の無原則、text間の矛盾について、解決を求める問題提起があり、ユネスコによる定義、多様性の是認など、議論は継続となった。

(3) 2005-08 Triennial Action Plan 経過報告。関係機関との連携、ICOMOS Observatory の確立など。

(4) 財務報告。2007年度、一部会費滞納はあるものの良好に推移。2008年度予算承認。

(5) 世界遺産。前年度まで同時開催だったWHパネル会議は、今回から試験的に前倒しされ、すでに昨年12月初旬に開催済み。ただしその後の情報を加味して再検討するための世界遺産ミニパネルが、本委員会に続く10～11日に開催されている。2009年度のWHパネルは本年11月25～29日の予定。

(6) 事務局レポート。イコモス年次報告作成の試み、Membership database の充実、西安研究所 IICC の事業計画など。

(7) 総会。カナダ・イコモスの委員長交代と総会資金難、臨時委員会の設置など。

(8) 国際機関との協力。本年10月ソウルでICOM会議など。

(9) 各国委員会および学術委員会。とくにイタリアで第二委員会の動き。

(10) その他。2011年総会候補地投票の結果、イランと決定。

なお本委員会に先立つ7日夕、昨年急逝したフランス代表の執行委員G.ヌリシエール氏追悼の会がシャイヨー宮建物の一室で催された。特別措置として、昨年のWHパネルから、フランス代表委員としてO.ポアソン氏が出席している。

(岡田保良)

5. 担当理事報告

広報担当(赤坂 信、黒田乃生、濱崎一志理事)(欠席のため前野委員長が代読)

昨年、日本イコモス国内委員会のホームページが開設されて、会員諸氏もおおいに利用されていると思う。今年カナダのケベックで開催されるイコモス総会の記事などは、このホームページから簡単にアクセスできて、大変便利で重宝されていると聞いている。年に4～5号出る機関誌JAPAN

ICOMOS/INFORMATIONとは得られる情報のスピードとその多様さは比べようもないが、むしろ紙媒体の方が、一覧性があつて全体の把握に便利な場合がある。ホームページからリンクする海外の情報も、気をつけないと知らないうちに修正されている場合もあり、不断のチェックが必要だ。ホームページが開設されて、歩み出して間もない。両者の長をさらにのばすかたちで、今後さらに工夫を加えて使いやすいものにしていきたい。

(赤坂 信)

6. 足達基金寄付について

(前野まさる委員長、西村幸夫副委員長、矢野和之事務局長)

日本イコモスを代表し委員長が2007年12月27日に礼状を送った。5,000,000円の振込み(2008年3月19日付け)をあらかじめ準備しておいた口座に頂いた。事務局から礼状を送る予定。

(西村幸夫)





審議事項

1. 入退会者

以下の入会者と退会者が承認された。

入会者 個人会員

| 氏名 | 所属 | 専門分野 | 推薦者 |
|--------------------|---|----------------------------|------------|
| 篠原 修 (しのはら おさむ) | 政策研究大学院大学 教授 | 景観デザイン・ 設計・計画思想史 | 益田兼房・矢野和之 |
| 関 哲行 (せきてつゆき) | 流通経済大学 社会学部教授 | 中近世スペイン史、 文学修士 | 前野まさる・矢野和之 |
| 赤川夏子 (あかがわなつこ) | Inter-University Insti- tute of Macau/Catho- lic University of Por- tugal 客員教授 | 文化遺産学修士、 経営学修士 | 斎藤英俊・黒田乃生 |
| 木下 剛 (きのした たけし) | 千葉大学大学院 園芸学研究所 准教授 | 造園学 (ランドスケープ計画)、 PhD | 赤坂 信・矢野和之 |
| 岡田真弓 (おかだまゆみ) | 慶応義塾大学大学院 文学研究科 民族学考古学分野 後期博士課程 | 西アジア考古学、 文化遺産学 | 三宅里一・岡田保良 |
| 大和 智 (やまと ち) | 筑波大学 人間総合科学研究科 教授 | 文化財保存、 建築史、 工学修士 | 前野まさる・稲葉信子 |
| 山名善之 (やまな よしゆき) | 東京理科大学工学部 第二部建築学科 准教授 | 建築意匠 (近現代建築) | 鈴木博之・矢野和之 |

その他、学生会員についての問い合わせがあったことが報告された。

退会者

| 氏名 | 事由 |
|-------|------------------------|
| 藤木 良明 | 一身上の都合により |
| 森 晃一 | ライターアーカイブス Japan 退任のため |

日本イコモス国内委員会 会員数 (今回の入退会者を含む)
個人 333 + 7 - 2 = 338 名 維持会員 13 社

2. Charter の用語の使用について

伊藤延男顧問より以下の提案があった。

【提案】 タイトルの「The ICOMOS Charter for the Interpre-

tation and Presentation of Cultural Heritage Sites」を「Principles for the Interpretation and Presentation of Cultural Heritage」と改め、かつ、これに従い本文中の文言を改める。

ついで資料にもとづいて提案理由が詳細に述べられた。これはICIP (Interpretation and Presentationについての) ISC が準備し、昨年の総会で配布された Charter に対する意見である。本部や ISC ウェブサイト掲載情報などを検討し、「Charter」という用語の使用また「Sites」の和訳の準備について引き続き議論することになった。

協議事項

1. 名誉会員推薦

本部への推薦書と履歴書提出の締め切りは3月31日(月)である。前回などの資料を参考に、事務局が書類を準備し、本部へ提出する。

2. 岡田保良氏推薦

本部への推薦書と履歴書提出の締め切りは3月31日(月)である。前回などの資料を参考に、岡田氏と事務局で書類を作成準備し、本部へ提出する。

3. 第10小委員会設置について

前回拡大理事会で継続審議となった佐々波氏が準備した件であるが、「歴史まちづくり」をテーマにした小委員会として再提案するか次回理事会に向けて準備することになった。

4. 2008年度理事会の日程と場所について

3月22日(土) 第1回拡大理事会
東京(本拡大理事会)

以下は日程の調整が必要。

6月14日(土) 要調整 第2回拡大理事会
群馬県で開催決定(詳細は未定)

9月6日(土) 要調整 第3回拡大理事会
(ケベック総会準備含む)

9月の理事会は、ケベック総会の準備として、理事会にあわせて準備研究会を開きたい。研究会には総会参加予定の会員が出席することが好ましい。総会での選挙対策もとるべきである。

12月13日(土) 要調整 第4回拡大理事会・総会
東京

5. 主催・共催・後援

現在、事務局に名義使用依頼の件は届いていない。以下の2件について矢野事務局長から提案があり協議された。

(1) 世界遺産関係研究会の開催

- 富士山(意見交換会)
- 長崎(研究会)
- 富岡製糸場(6月の理事会か?)

(2) International Day of Monuments and Sites 2008の際に開催研究会

2008年のテーマ“Religious Heritage and Sacred Places”が示され、開催日などが検討された。

6. 学生会員について

昨年は結局学生会員制度について協議したが、その後の対応はないままになっている。継続して協議したい。カナダでの総会でも若手向けのプログラムが特別に用意されている状況なので、日本イコモスも若手会員向けの対応が必要であると思う。40年前とは状況が変わってきていると自覚する必要があると考えられる。杉尾伸太郎理事(会員担当)のもとで、勉強会を開き、会員制度の充実。賛助会員を増やす事、などについて引き続き検討することになった。

7. その他

(1) プロヴディフ報告会:5月あるいは6月に開催される予定。

(2) 2009年リージョナルミーティング開催について

2009年は、他にもICOMOS関係のISCなどの会議が日本で開催の予定なので、リージョナルミーティング開催の場合は、IFLAあるいはCIPAの会議の前後に合わせて開催してはどうか。アジア・パシフィックのメンバーに参加願いたい。一

方で、2008年の開催が間に合わなかった国々があり、2009年のリージョナルミーティング開催をそれらの一つが担当する可能性もある。日本としては、平城遷都記念にあわせて、2010年という可能性も考えられるのではないか。

(3) 日本イコモス事務局ボランティアの募集

矢野事務局長から以下の提案があり協議された。

現在事務局の業務は、秋枝ユミさん一人が行なっているが、会員の増加、活動の活発化に伴い業務量が多くなっているため、ボランティアの募集を行ないたい。昨年インターンシップで手伝っていただいた京都大学大学院の牧之段朝子さんやボランティアの慶応大学の齋藤雪絵さん(現在、パリ政治学院留学中・ICOMOSパリ本部 Documentation Centre ボランティア)などで支えられたこともあり、ぜひ会員の協力を得たいところである。ボランティアやインターンシップの規則をつくって対応していきたい。大学の先生方を中心に、インターン・ボランティアなどのできる人材を紹介してくれるようお願いしたい。

(4) 賛助会員の拡大と基金運用による会費値上げの回避

矢野事務局長から資料にもとづいて説明があった。

現在ドル安であるが、ユーロは高止まり状態にある。パリ本部への送金がユーロ建てになったことから、賛助会員からの会員収入をなんとかして増やしたい。現在引き継いでいる基金の運用などで当面の会費の値上げを回避したいと考えている。





イコモス文化的景観国際学術委員会 (ISC) 2008年臨時会合報告

杉尾伸太郎、大野 渉 (プレック研究所)

文化的景観国際委員会 (International Scientific Committee on Cultural Landscapes/ ICOMOS-IFLA) の2008年臨時会合が、2008年4月18日(金)及び20日(日)の3日間にノルウェー国オスロにおいて開催された。この会合は、文化的景観に関する世界遺産登録推薦審査(デスクスタディー及び現地評価ミッション)に関わる専門家のための補助的なガイドラインを同委員会として検討するための最初の作業会合である。日本イコモス国内委員会からは、杉尾伸太郎(日本代表・副会長)が voting member として出席し、日本イコモス国内委員会大野渉が同行した(2003年ドイツ会合以降5回目)。アジア・オセアニア地域からの出席は日本のみで、その他イタリア(会長)、イギリス(副会長)、アメリカなど10カ国18名の出席があった。会合では、文化的景観の世界遺産審査に関わった経験を基に、文化的景観の審査に特有の困難さについて整理が行なわれ、分野ごとに、現行の一般的な審査ガイドラインでは十分担保されていない事項を洗い出す作業を今後手分けして行なうこととなった。その他、文化的景観の保全に関連して、自然環境の観点から文化的景観に関わりをもつIUCNとどのように協力していくか、ウィーンメモ(Vienna Memorandum on "World Heritage and Contemporary Architecture—Managing the Historic Urban Landscape")以降、国際的な建築家グループを巻き込んだ議論が進められている歴史的都市景観(Historic Urban Landscape)の保護に本委員会としてどのように貢献できるかといった点について関連最新情報の紹介と意見交換が行なわれたが、これらについては、今後も継続して勉強、議論を行なうことになる。

次回会合は、2008年9月末に開催される第17回イコモス総会の直前にアメリカ(バーモント)で開催される。その後は、2009年に日本及びフランス(ナントーオールレアン地区)、2010年にトルコ(イスタンブール)、2011年にイランで開催される予定。

UNITAR 広島オフィス主催 「世界遺産サイトの管理と保全に関する研修」

宇高雄志(兵庫県立大学環境人間学部)

去る3月30日より4月4日まで、国連訓練調査研究所(UNITAR)広島事務所において、今年度で5回目となる「世界遺産サイトの管理と保全に関する研修」が行なわれた。同研究所は紛争解決や生物多様性などのいくつかの研修プログラムをテーマごとに年間を通じて実施している。この中で世界遺産保全トレーニングでは同研究所資料によると「世界の最も有名な自然・文化遺産の『価値に基づく管理』」に焦点を当てます。2つの世界遺産を擁する類まれな広島でのワークショップは、国家の政策決定や計画を通してユネスコ世界遺産条約をより良く活用すること、また優れた情報および事例研究(ケーススタディ)の交換」を目的としている。これまでにおよそ200名の専門家が広島を訪れ、今年はこれまでに最も多数の43名のアジア太平洋地域の28カ国からなる遺産保全の専門家を中心とする参加者で開催された。この研修では、ユネスコ世界遺産センター、ゲティ保存研究所(GCI)、国際自然保護連合(IUCN)、国際記念物遺跡会議(ICOMOS)などからの専門家が講師役を務めている。当方も同研修に参画しており、今年度は石丸紀興氏(広島国際大学)、上村信行氏(広島大学)とともに厳島神社および平和記念公園への現地視察と、わが国における事例の報告を担当している。また会期中には公開シンポジウムが開催され、前野まさる氏が講演を行なっている。

今年度は「平和のための世界遺産保全」をテーマに実施された。同研究所の説明によると「世界のたくさんの世界遺産が原爆ドームと同じように直接的および間接的に平和に貢献しています。あるものは人類に戦争の暗い過去を想起させ、あるものは異なった社会的グループ間の理解、和解、容認を促進しています。ある遺産を保全するという共通の目的のために対立している当事者のための対話の機会が提供されることもあります」と述べられている。広島にある二つの世界遺産を通じた国際的な専門家の人的な交流は終了後も継続しており、回を重ねるごとにプログラムの内容も厚みを増しているといえる。

お知らせ

2008年ICOMOSケベック総会・シンポジウム

参加を予定されている会員は、日本イコモス国内委員会事務局までご一報下さい。

総会・国際シンポジウム・国際フォーラムなどに関する最新情報が発表されていますので、詳しくは下記ウェブページをご覧ください。

英語：http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/02_nouvelles.htm

仏語：http://www.conferium.com/Clients/icomos/fr/02_nouvelles.htm

西語：http://www.conferium.com/Clients/icomos/es/02_nouvelles.htm

登録：登録は、ウェブサイトから行なっていただく事になります。

他の登録方法・小切手での振込などについては、下記にお問い合わせ下さい。

ICOMOS Québec 2008

Hospitalité Québec

580 Grande-Allée Est, #140

Québec (Québec) Canada, G1R 2K2

あるいはファクスで：+(418) 529-7548

国際シンポジウム “THE SPIRIT OF PLACE — BETWEEN THE INTANGIBLE AND THE TANGIBLE”

シンポジウムのテーマ：THE SPIRIT OF PLACE — BETWEEN THE INTANGIBLE AND THE TANGIBLE

アブストラクト応募期限は2008年3月1日で締め切られました。

アブストラクト審査結果（口頭発表・ポスター）の通知が5月末にありました。

フルペーパー締め切り：2008年7月15日

詳細は下記と次頁をご覧ください。

REGISTRATION RATES

登録日の詳細、下記ウェブページをご覧ください、ご本人で是非ご確認下さい。

(http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/03_tarifs.htm より抜粋)

登録費の割引は2008年7月15日まで。カナダドルでの表示になります。

| Participants | before July 15, 2008 | after July 15, 2008 | after September 15, 2008 |
|------------------------------------|-------------------------|------------------------|-----------------------------|
| Members more than 30 years old | 450 \$ CDN | 500 \$ CDN | 600 \$ CDN |
| Non-members more than 30 years old | 500 \$ CDN | 550 \$ CDN | 650 \$ CDN |
| Members 30 years old and less | 300 \$ CDN | 300 \$ CDN | 300 \$ CDN |
| Non-members 30 years old and less | 350 \$ CDN | 350 \$ CDN | 350 \$ CDN |
| Registration - one day | 300 \$ CDN | 300 \$ CDN | 300 \$ CDN |
| Forum only * | 100 \$ CDN | 100 \$ CDN | 100 \$ CDN |
| Forum and Symposium * | 200 \$ CDN | 200 \$ CDN | 200 \$ CDN |
| Program - accompanying person | 300 \$ CDN | 300 \$ CDN | 300 \$ CDN |

* 若手研究者・プロフェッショナルを対象とするフォーラム（専門分野は問わない）



- テーマ:<http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/pdf/Appel-then.pdf>
- 応募（アブストラクト、フルペーパー）詳細：
http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/05_appelconferences2.htm

参加を予定されている会員は、日本イコモス国内委員会事務局までご一報下さい。

四川地震に関する 中国イコモスへの見舞状とその礼状

Tokyo, 19th May 2008

China ICOMOS National Committee

President Zhang Bai

Sympathy and condolences for the victims of the Great Sichuan Earthquake in China

It is with great sadness that we learnt the news of the devastating earthquake that touched China. Please accept our deepest feelings of sympathy and condolences for the victims. The Japanese television and media feature news on the earthquake damages everyday. We are sadly surprised by the extent of the damages, and at the same time, are taken with a deep feeling of sadness.

We also imagine that in many areas precious cultural heritage properties have been touched by the earthquake. Obviously the rescue of human lives has priority to the safeguarding of cultural heritage. Nevertheless, if there is anything that Japan ICOMOS could do to help for the restoration of cultural heritage, as a neighbor country involved as China ICOMOS in the protection, evaluation and management of World Heritage, please do not hesitate to ask for our assistance.

Masaru MAENO,

President, Japan ICOMOS National Committee

【返信】

----- Original Message -----

From: china icomos

To: japan-icomos

Sent: Monday, May 26, 2008 11:29 AM

Subject: 回复: Sympathy and condolences for the victims of the Great Sichuan Earthquake in China

Dear colleagues from ICOMOS Japan,

Thank you very much for your kind letter, we are deeply grateful.

The director of China state administration of cultural Heritage and ICOMOS China experts have gone to Sichuan last week, the damaged condition of the heritage sites will be better known after their thorough investigations. Later we might need indeed the expertise of our Japanese colleagues in the restoration of the some sites, for further details we could discuss when we meet in the coming Hangzhou conference.

As you said, now the most effort is put in rescuing people and restoring their lives, China is very much touched to receive aid and support from so many of our foreign friends, what Japanese people did after the disaster has created a strong and warm emotion of gratitude among Chinese people, making us braver in confronting the post-disaster damages and putting the whole nation's strength together to help people in Sichuan out of the disaster. For many other aspects such as post-disaster shelter-building and reconstruction, we also have a lot to learn from inspiring Japanese design experience.

Thank you again for your support!

Sincerely yours,

Tong Mingkang

President of ICOMOS CHINA

日誌 事務局

(2008年2月13日～2008年5月26日)



- 02/27 ICOMOS ThailandよりNewsletter no.12 (Dec. 2007- March 2008) を受領。
- 03/03 日本ユネスコ協会連盟よりユネスコ vol.1114 2008.3を受領。筑波大学世界文化遺産学専攻より「地域再生と観光戦略プロジェクトニュース vol.6」 Dec 2007を受領。
- 03/14 島根県教育庁文化財課世界遺産登録推進室より、「世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観公式記録誌(日本語版)」、「World Heritage Iwami Ginzan Silver Mine and its Cultural Landscape (英語版)」、「世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観 (DVD)」を受領。
- 03/17 (財)ユネスコ・アジア文化センターよりACCU news no. 366、2008.3を受領。
- 03/22 日本イコモス国内委員会 2008 年度第 1 回拡大理事会開催 (於 岩波書店一ツ橋ビル)。
高瀬 裕氏より「第 2 回文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ予稿集 2008.03.08-09」(日本イコモス後援事業)を受領。
- 03/31 日本コンラクトブリッジ連盟より寄付金 10 万円受領。
- 04/01-04 UNITAR 広島オフィス主催ワークショップ “Conservation for Peace” にオブザーバー参加。前野委員長ラウンドテーブルパネリストとして参加。
- 04/07 Tibet Heritage Fund より “THF 2005 Annual Report” を受領。
- 04/18 東京文化財研究所より「第 21 回国際文化財保存修復研究会報告書「本尊処置後のモニタリング」」、「国際資料室蔵書目録」、「文化財保護関連法令集【カンボジア】」、「関野克資資料目録 2」を受領。
- 04/21 矢野和之氏より「『平泉』世界遺産フォーラム 報告書—世界遺産登録前夜、先進地から学ぶ—」を受領。
- 04/30 日本ユネスコ協会連盟よりユネスコ vol.1115 2008.5を受領。
内藤央真氏より「世界遺産石見銀山を歩く」、「石見銀山と日本の世界遺産候補地」、「温泉津」を受領。
- 05/07 東京文化財研究所よりTobunken News 2008 no.32、Tobunken News Digest no.2を受領。
- 05/19 (財)ユネスコ・アジア文化センターよりACCU news no. 367、2008.5を受領。
東京文化財研究所 文化遺産国際協力センターより、「バーミヤーン遺跡保存事業概法：2006 年度(第 6・7 次ミッション)」、「バーミヤーン仏教石窟調査概法：2006 年度」、「アフガニスタン・カブール市南部の文化的記念物および考古遺跡の調査」、「バーミヤーン遺跡保存のための環境調査報告 2005～2006 年」を受領。
ICOMOS China へ四川地震お見舞いレター送信。(05/26 に返信あり)。

日本イコモス国内委員会 維持会員 (代表者)

(敬称略・順不同)

株式会社 尾田組 (尾田芳信)
株式会社 都市環境研究所 (矢嶋啓自)
株式会社 ブラック研究所 (杉尾伸太郎)
株式会社 トリアド工房 (伊藤民郎)
西武建設株式会社 (大澤茂治)
北野建設株式会社 (北野次登)
株式会社 小林石材工業 (小林美和)

株式会社 鴻池組 (大岩祥一)
株式会社 乃村工藝社 (乃村義博)
株式会社 文化財保存計画協会 (矢野和之)
「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会 (有賀 正)
株式会社 京都科学 (片山 保)
「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」(仁科恵敏)

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業・団体のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

| | | | |
|-------------------|-----------------|----------|-------------------|
| President | 委員長 | 前野 まさる | Masaru MAENO |
| Vice President | 副委員長 | 杉尾伸太郎 | Shintaro SUGIO |
| Secretary General | 事務局長 | 西村 幸夫 | Yukio NISHIMURA |
| | | 矢野 和之 | Kazuyuki YANO |
| Trustees | 理事 | 赤坂 信 | Makoto AKASAKA |
| | | 小野 昭 | Akira ONO |
| Auditors | 監事 | 河野 俊行 | Toshiyuki KONO |
| | | 黒田 乃生 | Nobu KURODA |
| | | 清水 真一 | Shinichi SHIMIZU |
| | | 杉尾 邦江 | Kunie SUGIO |
| | | 鈴木 博之 | Hiroyuki SUZUKI |
| | | 田中 哲雄 | Tetsuo TANAKA |
| | | 田辺 征夫 | Yukio TANABE |
| | | 西浦 忠輝 | Tadateru NISHIURA |
| | | 濱崎 一志 | Kazushi HAMAZAKI |
| | | 益田 兼房 | Kanefusa MASUDA |
| | | 宮城 俊作 | Shunsaku MIYAGI |
| | | 渡邊 保弘 | Yasuhiro WATANABE |
| | | 沢田 正昭 | Masaaki SAWADA |
| | | 前田 耕作 | Kosaku MAEDA |
| | | Advisors | 顧問 |
| 伊藤 延男 | Nobuo ITO | | |
| 坪井 清足 | Kiyotari TSUBOI | | |

小委員会 WORKING GROUPS

| | | | |
|--------|----|-------|-------------------|
| Chiefs | 主査 | 藤井 恵介 | Keisuke FUJII |
| | | 稲葉 信子 | Nobuko INABA |
| | | 石井 昭 | Akira ISHII |
| | | 三宅 理一 | Riichi MIYAKE |
| | | 益田 兼房 | Kanefusa MASUDA |
| | | 西村 幸夫 | Yukio NISHIMURA |
| | | 崎谷 康文 | Yasufumi SAKITANI |

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

| | | |
|---------------------------------------|---------|---------------------|
| Executive Member | 岡田 保良 | Yasuyoshi OKADA |
| Advisory Committee | 前野 まさる | Masaru MAENO |
| ISC on: | | |
| Archaeological Heritage Management | 小野 昭 | Akira ONO |
| Analysis and Restoration | 岸本 雅敏 | Masatoshi KISHIMOTO |
| | 花里 利一 | Toshikazu HANAZATO |
| Historic Towns and Villages | 坂本 功 | Isao SAKAMOTO |
| | 西澤 英和 | Hidekazu NISHIZAWA |
| | 福川 裕一 | Yuichi FUKUKAWA |
| Underwater Cultural Heritage Training | 上野 邦一 | Kunikazu UENO |
| | 荒木 伸介 | Shinsuke ARAKI |
| Cultural Landscapes | 稲葉 信子 | Nobuko INABA |
| | 工俣 善通 | Yoshimichi KURAKU |
| Vernacular Architecture | 杉尾伸太郎 | Shintaro SUGIO |
| | 本中 眞 | Makoto MOTONAKA |
| Wood | 前野 まさる | Masaru MAENO |
| | 大野 敏 | Satoshi OHNO |
| Earthen Architecture | 伊藤 延男 | Nobuo ITO |
| | 渡邊 保弘 | Yasuhiro WATANABE |
| Cultural Tourism | 岡田 保良 | Yasuyoshi OKADA |
| | 宗田 好史 | Yoshifumi MUNETA |
| Legal Issues | 石井 昭 | Akira ISHII |
| | 河野 俊行 | Toshiyuki KONO |
| Heritage Documentation | 山田 修 | Osamu YAMADA |
| | 杉尾 邦江 | Kunie SUGIO |
| Cultural Routes | 大野 涉 | Wataru OHNO |
| | 西浦 忠輝 | Tadateru NISHIURA |
| Stone | 石崎 武志 | Takeshi ISHIZAKI |
| | 益田 兼房 | Kanefusa MASUDA |
| Risk Preparedness | 小川 勝 | Masaru OGAWA |
| Rock Art | 五十嵐ジャンヌ | Jannu IGARASHI |



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.6 12 JUNE 2008

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13 階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>

JAPAN-ICOMOS National Committee Secretariat

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>